

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 一級河川 太田川水系 根谷川支川9 通常砂防事業に伴う業務委託

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象 砂防 砂防

ボーリング名	Bor. No. 3	調査位置	広島県広島市安佐北区可部町上町屋 地内	北緯	34° 32' 55.5889"
発注機関	広島県西部建設事務所	調査期間	2023年 5月 30日 ~ 2023年 6月 1日	東経	132° 31' 50.8765"
調査業者名		主任技師		現場代理人	
孔口標高	T. P. 92.21m	角	180° 上下 90° 0°	方位	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°
総削孔長	8.00m	地盤勾配	水平0° 鉛直90°	使用機種	東邦地下工機 D0-C48
				コア確定者	
				ボーリング責任者	
				エンジン	ヤンマー NFD-10
				ポンプ	東邦地下工機 BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名 (模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相對密度	相對稠度	地質時代名	記 事	孔内水位 / 測定月日	標準貫入試験					試料採取	室内位置試験	削孔月日			
												深度-N値図								深 度 (m)	100mm 以上の打撃回数	打撃ごとの貫入量
	91.41	0.80	シルト混じり砂			暗褐				0.3m付近までは表土で細粒分に富む。以深、マサ土質な砂質土。粒度変化に富み、砂の粒径、細粒分の混入量とも一定しない。旧耕作土に相当する。	05/31 4.00 17.30	12	1.15	3	4	5	12	300				
				礫混じり砂		褐灰			第四紀	マサ土質な粗中砂からなり、粒度変化に乏しい。粒径はφ40mm程度以下である。ごくまれに、小割れた石英塊を混入することがある。全体に少量の細粒分を伴っている。貫入試料の含水は、1~3mが少し湿った程度で、4.15~4.25m間の方がやや高い。4.15~4.25m間の貫入試験は、サンプリング後の隙水を打ち抜いており、隙打ちの影響は明らかである。本層は土石流堆積物に相当する。		14	2.15	3	5	6	14	300				
	87.96	4.25	強風化花崗岩			淡褐灰			白亜紀	非固結砂状コアを呈す。コアは軽い指圧で容易に崩れる。【D級岩盤、締まった砂質土に相当する】		22	3.15	5	8	9	22	300				
	87.61	1.60		風化花崗岩		白灰			白亜紀	土塊状コアで採取されるが、少しの固結度を残しており、指圧で容易に崩れるものではない。ほぐした試料は砂状~細粒状と化し、岩片として残存するものはない。5.65m以降、やや顕著に色調変化する。層~赤色を帯び、酸化変色とみられる。7.35~7.5m間、暗色の強い細粒の岩相を呈する。ひんがしの小岩脈あるいは有色鉱物の濃集部と思われる。【D級岩盤、軟岩Iに相当する】		42	4.15	10	15	17	42	300				
						検灰						94	5.15	26	24	60	50	160				
						赤褐						88	6.15	28	22	70	50	170			5/31	
						桃灰						75	7.15	20	30	50	200					
	84.21	8.00										136	8.15	43	7	10	50	110			6/1	